模擬国連会議全米大会
日本代表団派遣事業
FAQs

はじめに

　この度、当事業によく寄せられるご質問（FAQs）に対する回答をまとめました。なお、本冊子に掲載の情報は、作成時点のものになります。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行の影響により、今後変更となる可能性もございますので、予めご承知おきください。選考プロセスをはじめとする今後の事業スケジュールに変更が生じた場合には、その都度、当事業ホームページおよび各種 SNS にてご連絡いたします。

2020 年 4 月 27 日
模擬国連会議全米大会第 37 代日本代表団派遣事業
運営局員　一同

I.　　選考プロセス関連

Q1.　選考の内容はどんな感じですか？

A1.　選考の内容は運営代によって異なりますが、昨年は 2000～3000 字程度の小論文 2 本、面接、グループディスカッション、会議型コンテンツ（台風 19 号接近の影響により中止）等の選考課題の結果で派遣団員を選出しました。

Q2.　応募資格は何ですか？

A2.　応募要項などは例年 6 月頃に更新されるため、あくまでも参考程度となりますが、昨年の募集対象者は応募時点で日本模擬国連会員かつ大学 1 年生にあたるもの等としていました。

Q3.　選考の倍率はどのくらいですか？

A3.　例年 2～3 倍です。

Q4.　アプライに向けてどのような準備をしていましたか？

A4.　毎年選考の内容が異なるため、対策をすることは難しいですが、英語の勉強をしておくことをおすすめします。

II.　　DDP 関連

Q5.　DDP とは何ですか？

A5.　DDP は Delegates Development Programme（団員育成プログラム）の略です。派遣団員選出後の 11 月から全米大会に参加する 3 月までの 5 か月間かけ、全米大会のみな

らず国際社会で活躍する人材を養成するためのプログラムです。DDP には 3 つの種類があります。全体 DDP は派遣団員・運営局員全員が東京に集合して行うもので、地域 DDP は関東・関西に別れて地域別に実施します。また、個人 DDP では派遣団員と運営局員が 1 名ずつペアを組み、派遣団員のそれぞれに必要な能力の強化を行います。

Q6.　DDP の開催頻度はどれくらいですか？また、関東に集合する頻度はどれくらいですか？

A6.　例年、全体 DDP および地域 DDP は 11 月から翌年 3 月にかけてそれぞれ 3 回～4 回程度実施します。
運営代によって東京に集合する頻度は異なりますが、例年は DDP 期間中に 4 回程、また関東で開催される事業報告会への参加を合わせると 1 年に 5 回程関東に集まることになります。東京で行われるものに関西等遠方から参加する場合、交通費も一部支給されます。
個人 DDP はペアによって頻度はそれぞれですが、殆どのペアが毎週 1 回の対面または電話での個人 DDP を実施しています。

III.　渡米プログラム関連

Q7.　渡米プログラムでは何をしますか？

A7.　渡米プログラムは提携校交流、ブリーフィング、全米大会参加の 3 つに大別できます。第 1 週目には全米大会にペアを組んで参加する提携校の学生との交流を行います。ここでは全米大会に向けて政策等の最終調整の他、日本文化の紹介も行います。次に、ブリーフィング期間にはニューヨークにある国連機関や駐国連日本政府代表部等を訪問し、国際機関で働く方々のお話をうかがいます。ブリーファーの中には全米団の OBOG もいらっしゃいます。そして最後に全米大会に参加します。渡米プログラムは例年約 3 週間のプログラムで、3 月半ばから 4 月上旬にかけて実施します。
なお、第 37 代派遣事業の渡米プログラムは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行に伴い、中止となりました。

Q8.　渡米費用はどのくらいかかりますか？

A8.　渡米プログラム参加費用は為替レートの影響もあり、毎年変動します。協賛してくださる財団様・企業様、日本模擬国連のご支援のもと、例年 13～20 万円程度で渡米していますので、参考にしてください。なお、渡米プログラム参加中の食費等は自己負担となります。

IV.　運営関連

Q9.　運営局員期の活動はどんなものですか？

A9.　運営局員期の仕事として①運営局員としての業務、②各役職の業務の 2 種類の仕事があります。運営局員期の活動頻度や忙しい時期は役職によってかなり異なりますが、全体として運営局員期の仕事量は決して少なくはありません。
①運営局員としての業務としては、毎週に 1 回の電話ミーティングへの参加が求められます。また、9 月から 10 月ごろに選考プロセスおよび 11 月から翌年の 3 月まで DDP（月 1 回～2 回程度の全体 DDP・地域 DDP＋週 1 回程度の個人 DDP）の運営を担当します。その他、事業報告会等イベントへの参加が求められます。
②全米団の運営局には運営統括、DDP 担当、渉外担当等 15 程度の役職が設けられています。各役職の業務については、Twitter の全米団新歓アカウントで行っている役職紹介企画や HP にて以前公開した「運営概要書 2020」をご参照ください。（なお、当該文書は第 37 代派遣事業の運営概要書となります。ご了承ください。最新の「運営概要書 2021」は 6 月頃に公開予定です。）例えば DDP 担当であれば DDP 全体の設計、渉外担当であれば渉外活動等などを行うことになります。

V.　その他

Q10.　英語が得意ではないのですが大丈夫ですか？

A10.　全米大会において英語力が重要なことは間違いありません。しかし、英語がすべてではありません。「英語力」を理由に全米団に入ることを諦めないでほしいです。多くの方が、選考プロセスにおいて英語力がどの程度重視されるのかご質問されます。選考の具体的な採点基準について言及することはできませんが、英語力のみを判断材料として派遣団員を選ぶということは全くありません。応募者の方の多様な能力を加味した上で派遣団員の選出を行います。
また、DDP 期間中に英語力の向上を図ります。希望に応じ週 1 回程度の個人英語 DDP を実施し、各自に合う形での英語力の強化を行います。また全体 DDP・地域 DDP においても英語での交渉やプレゼンテーションの練習等を行い、全米大会に備えます。

Q11.　全米団のメンバーはある程度模擬国連の研究会で経験を積んだ人が多いですか？

A11.　全米団のほとんどのメンバーは大学に入ってから模擬国連活動をはじめた者です。
そもそも例年応募資格では模擬国連研究会に入っていることが条件になっています。（なお、今年度の選考プロセスについては 6 月頃に応募資格等が開示される予定です。）
研究会に入ってからどのように活動されるかは自由ですが、応募以前（4～8 月）に研究会会議に 1 回だけ出ているメンバーもいますし、5 回ほど出ているメンバーもいます。

全米団の派遣団員に選ばれてからも、並行して研究会会議に参加しているメンバーが多いです。

Q12.　全米団のメンバーは法学部や国際関係についての学部の方などが多いように見受けられます。そのような学部で学ぶ人ではないと全米団に入ることは難しいですか？

A12.　いいえ、そういうわけではありません。たまたまそういった学部の学生が多く集まっていますが、理系や経済学部の学生もいます。応募時に所属学部による制限は設けておりません。また、選考プロセスでは学部の専門性に特化した内容などを聞くことはないので、安心してください。

Q13.　全米団は忙しいと聞くけれど実際のところどうですか？学業や研究会、その他の活動との両立は可能ですか？

A13.　派遣団員期の準備や運営局員期の仕事が多いのは事実ですし、忙しくなることは否定できません。しかし、それに見合った、もしくはそれ以上の経験と成長が得られます。研究会や学業、その他の活動との両立は可能です。第 37 代運営局員は研究会副会長・総務統括・研究会会議フロント等を務めていました。第 37 代派遣団員は研究会副会長・研究・研究会会議フロント等を努めています。また、全米団と両立しながら学業で優秀な成績を維持し大学から奨学金を獲得している者もおります。アルバイトをしている者も多いですし、他の学生団体やサークルの運営を兼任している者もおります。

Q14.　留学や海外旅行をしたいのですが、全米団と両立することは可能ですか？

A14.　課題や仕事をきちんと進めることができる環境を確保するために、全米団では派遣団員期・運営局員期を通して 1 か月以上の海外渡航は原則として認めておりません。よって 2020 年 11 月上旬から 2022 年 6 月上旬の期間にかかる 1 か月以上の留学は不可能です。また、運営局員期の役職や時期によっては 1 週間以上の海外渡航が厳しくなることをご理解の上ご応募ください。
しかし、全米団に所属することで留学という選択肢が絶たれるわけではありません。全米団では 6 月の運営終了後に留学する者も多くおります。昨年度運営を行っていた第 36 代運営局員は 9 名中 6 名が全米団の運営終了後に長期の留学をしています。留学や海外旅行はいつでもできますが、全米団という選択肢を取れるのは大学 1 年生の時だけです。

※上記以外にも疑問点やご相談がございましたら、当事業のホームページまたは Twitter のダイレクトメッセージ等、SNS を通じてお気軽にご連絡ください。